

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月30日

協議会名: 東京都離島航路地域協議会

評価対象事業名: 畦島航路運営費等補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
神新汽船株式会社	神津島～下田航路	事故なく安定した運航が実施できた。	A 荒天による欠航以外は、計画通り運航でき、事業は適切に実施できた。 運航回数: 計画315.0回 → 実績252.0回(計画比80.0%)	A 旅客輸送人員: 計画9,000.0人 ⇒ 実績11,089.5人(計画比123.2%)、回復基調に転じている。 自動車輸送台数: 計画 700台 ⇒ 実績 847台(計画比121.0%)、旅客と同様に回復基調 貨物トン数: 計画 5,000トン ⇒ 実績4,784.73トン(計画比95.7%)、対前年比較で減少に歯止めが掛かった。	前期から引き続き安全第一を旨に島嶼地域への寄与を念頭に運航にあたる。 旅客と自動車輸送の更なる増加と貨物輸送の低迷脱却を図り、収支改善を目指す。 下田と島嶼間の人流活性化を目的に、下田/島嶼間の臨時便運航を計画している。
東海汽船株式会社	東京～八丈島航路	旅客輸送人員は225人減少の88,078(昨年比99.7%)となった。主な区間の増減は東京～三宅島間が2037.5人減少、東京～御蔵島間が251.5人増加、東京～八丈島間が1610.5人減少した。	A 安全運航に努め、航路事業を適切に実施した。運航回数では計画数365回に対して悪天候等による欠航数が20.5回あり、就航回数は344.5回(計画比94.4%)となった。なお、10.4.6.7.9月は欠航数0であった。	A 旅客輸送人数は88,078(計画比100.5%)となったものの、運賃改定と燃料油価格変動調整金収入により、旅客運賃収入は923,601千円(計画比106.8%)となった。 また、貨物輸送量は522.64トン減少の47,694トン(計画比96.7%)となったものの、運賃改定を実施した影響から貨物運賃収入は552,414千円(計画比116.8%)となった。	通信衛星サービス(Starlink)について、1等以上の上級席へ利用可能範囲を拡大したことを積極的にPRし、1等以上の上級席利用者数を増加させ客単価の上昇を図る。 インターネット経由での予約を対象とした「セルフ券売機」についても、従来より利用可能範囲を拡大することにより利便性と満足度を向上させ、リピーターの獲得につなげる。
伊豆諸島開発株式会社	八丈島～青ヶ島航路	年間を通して、同じダイヤおよび旅客定員により安定的な運航を行った。	B 荒天による欠航の影響を受けたものの、概ね計画通り運航し、事業は適切に実施された。(運航実績137.0回／運航計画238.0回、就航率57.6%)	A 旅客輸送人員は、計画人員2,362.0人に対して実績は2,367.0人(計画比100.2%)となった。	船員の働き方改革を推進しつつ、安定かつ安全な運航を確保する。八重根漁港を母港とするメリットを活かしダイヤ改正を検討するなど航路運営収支の改善を図っていく。
伊豆諸島開発株式会社	父島～母島航路	年間を通して、同じダイヤおよび旅客定員により安定的な運航を行った。	A 荒天による欠航の影響を受けたものの、概ね計画通り運航し、事業は適切に実施された。(運航実績252.0回／運航計画283.0回、就航率89.0%)	A 旅客輸送人員は、計画人員22,059.5人に対して実績は24,104.0人(計画比109.3%) となった。	船員の働き方改革を推進しつつ、安定かつ安全な運航を確保する。ダイヤ改正を検討するなど航路運営収支の改善を図っていく。